２０２３年　５月号

関東学院六浦こども園

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ　奉仕せよ

聖　句　：　父と母を敬いなさい（エフェソの信徒への手紙　６：２）

保育目標：０歳児　・先生と安心して過ごす中で、園生活に慣れていく。
１歳児　・安心して、保育者と好きなものを見つけて遊ぶ。
２歳児　・周りの大人に十分に受け入れられて、思いを表現する。
３歳児　・友だちや先生と好きなことを見つけて遊ぶ。
４歳児　・感じて考えて自分の思いをもって生活する。恵みを喜び、神さまに感謝する。
５歳児　・自分のやり方で動き、様々なことに興味をもつ。恵みを喜び、神さまに感謝する。

園庭の木の葉が柔らかく、新緑の季節が訪れ、戸外の気持ちよさを感じます。新しい場所での集団生活が始まり約１か月、保育室にも園庭にも賑やかな声が聞こえます。

新たに加わった年少組では登園後すぐに遊びに出かける子、お家の方と離れがたい子、遊びが見つかると「行ってきます」と言って表情が明るくなる子と様々な姿が見られます。一人ひとりの「よし」と思う朝の瞬間を待ちながら、「今日はどんな遊びの姿に出合えるかなぁ」と楽しみな毎日です。

入園式が終わって数日後、年少組の数人と園庭へ出かけました。前の日から続いていたおままごとをしようと、バケツに水を入れ、テーブルにお皿やボール、しゃもじやれんげを並べ、ネギに見立てた葉っぱや八重桜の花びら、落ち葉を集めそれぞれが思う材料を土や水に混ぜ、遊んでいました。どの子も静かにその場を味わいながら、自分の生活がここで始まっていることを自分に言い聞かせているようでした。

しばらくして、使っていたバケツが倒れテーブルの側に水が流れました。こぼれた水と土をこね始めた私の隣でここぞとばかりにさらにじょうろの水を流し、盛大に泥の感触を楽しむＲ君。持っていたシャベルで勢いよく泥を混ぜては水を足し、足元に大きな水泥たまりが出来ました。そこへ歩み寄ってきたＨちゃん、私の隣にしゃがみ込むとシャベルを泥にくぐらせながら「Ｈちゃんのお母ちゃんはね、ケーキ作るのがすごく上手なの。」とぽつりと教えてくれました。「素敵ね。」と伝えると、さらに「あとね、チョコレートとクッキーもおいしいんだよ。」と今度は少し胸を張って伝えてくれました。そんな様子をままごとの場所に座って見ていたＳ君。（前日から自分の使っている道具を誰かに持っていかれてしまうのではないかとずっとドキドキしながら、物を持っていることでどうにか自分を保とうと気を張っている姿がありました。）しばらくして、それまで自分の道具を握りしめていたＳ君が泥たまりの側にしゃがみ込み指先を浸し始めました。それまでの数日間の様子から、「汚れることが苦手かもしれない」と感じていた私は「おっ！」と驚き、心の中で秘かに喜びました。「たこ焼きのトロトロだね。」と口にしたＳ君（きっと家庭での経験を思い起こしていたことでしょう。）、すぐに夢中になって泥の中に手を泳がせていました。トロトロが流れていってしまいそうになると「Ｓ君のトロトロ行かないで。」と必死に戻そうとしたり、勢いよく水を流すＲ君を横目で眺めてみたり、なんとも言えない気持ち良さの泥に手を浸しホッと表情が和らぐＳ君に出会うことができました。

保育者と一緒なら「思いっきり」を発揮できるＲ君、「お母ちゃん」の姿を思い浮かべながら遊ぶＨちゃん、こども園で自分の場所を見出そうとしているＳ君。泥たまりの周りに様々な思いを巡らせた３人が集っていました。まだまだ直接交わることはありません。けれどそれぞれの思いが混在しながら、その場が持続する心地よさがこの空間にありました。「個」と「個」、また「場」との新たな出会い、混沌の季節に私はこの空間に居られる幸せを感じると共に、それぞれが「自分の」世界を十分に味わって育ってほしいと心から願いました。

幼い時期に「自分」を十分に味わった人こそ、相手を柔軟に認め共に歩む「人」になり、共感し合う「仲間」ができると考えています。また日々変化する、その人の「今」に共に存在できることに感謝し、子どもの傍らにいながらその人ならではの「その時」を大切にできる者でありたいとも思います。子どもも大人も新しい環境、生活の中で想像を超える出来事に出合うこともあることでしょう。戸惑った時、迷った時、どんな小さなことでもお聴かせください。共に悩み考え、知恵を合わせていける存在になれるよう努めてまいります。まだしばらく緊張や不安に包まれた日が続くこともあるでしょう。でも「大丈夫、大丈夫。」と心でつぶやきながら子どもたちの支えになりたいと願っています。どんな時も神さまが私たちを愛して、守り導いてくださることを信じ、一歩ずつ豊かな歩みをできますようにと祈ります。

主任　　千葉　綾子